

私の夢が叶うまで

橋本 未来

1. 教員を目指すきっかけ

私が教員を目指したきっかけは2つある。

1つ目は、私の中学時代の英語の先生への憧れである。私は当時英語に苦手意識があり、あまり好きではなかった。しかし、中学時代の英語の先生の授業を受けて英語に対して興味をもち、もっと英語を知りたいという意欲も高めることができた。その先生の授業は授業内活動の種類が豊富にあり、生徒を飽きさせず、かつ主体的に学べるものであった。授業をしている先生の姿を見て、その授業を受けて、私も英語の楽しさや面白さを中学生に教えていきたいと思うようになった。

2つ目は、高校時代に助けてもらった先生の存在である。私は高校時代に運動部に所属しており、平日も休日もほぼ休みなく部活動に励んでいた。しかし、周りとの人間関係やどんなプレーをしても正解がないことに悩み、精神的に苦しくなっていた。その時は、自分を傷つけたり、自分を自分自身で否定したりすることしかできず、自分自身の感情やメンタルを良い方向に持っていくことができなかつた。その時、私の異変に当時の担任の先生が気づいて、先生自身の仕事を後回しにしてまで私の話を聞いてくれた。そういう経験から、同じように悩んでいる生徒を助け、生徒が楽しく学校生活を送れるように支えてあげたいと思った。

このようなきっかけから、私は大学に入学して教職課程を履修し、教員免許状を取得できるように4年間励んできた。その4年間は私にとっても濃いものであり、とても充実したものであったと言える。

2. 教員採用試験までの経験や自身の変化

教員採用試験を意識し始めたのは大学3年生の時である。勉強方法や対策をどのようにしていくのかとても悩んだ。そして私自身スクールサポーターなどの学校現場に出たというような経験がなく、どのように自分をアピールすべきなのかという面にも悩んだ。その不安を解決してくれたのは、友人はもちろんのこと、教職教育サポート室が行う模擬授業練習会や、2次対策講座であった。私は最初正直あまり乗り気でなく、ただ課されたものをやればいいやというような気持ちでいて、かつ、あまり表に立って何かをするというのが苦手だったので避けていた。しかし、このような機会に参加するにつれて自信にもつながり、授業に対するやる気も出てきて教師になって教壇に立って英語を教えたいと思うようになった。

その中で、私自身の様々な変化があったように感じる。模擬授業練習や1次対策、2次対策を通して自分自身の教師という職業に対する意識や、本気で教員になりたいという気持ちが強くなるというような、様々な経験がプラスに動いており、それが教員採用試験にも活きた。そういう変化をぜひ多くの人に実感してほしいと思う。

3. 教員を目指しているみなさんに伝えたいこと

私は教員を目指す皆さんに伝えたいことが3つある。

1つ目は、自分を大切に、そして自分の力を信じてほしいことである。私は教員採用試験の期間に精神的に不安定になり、自信もなくなり「自分なんか・・・」という気持ちになっていた。そんな時に、自分の好きな言葉を思い出した。「やらない後悔より、やって後悔」という言葉である。やらずに後悔するくらいなら、がむしゃらにやって後悔した方が自分にとって学びに繋がり、次に活かしていけるという言葉である。私はその言葉を意識して自分を鼓舞し、乗り越えた。だから、自分の力を信じて、やりきってそれでもダメなら次へとつなげられるように頑張ってもらいたい。

2つ目は、一緒に頑張る仲間を大切にしてほしいことである。教員採用試験を受ける前は同じ学部の教職課程を履修している友人としか関わりがなかった。そのため、モチベーションを保つことができず、「自分は何のために勉強しているのだろう」と思う時が多々あった。しかし、模擬授業練習会や1次対策講座等で新たなメンバーと出会い、様々な価値観に触れる機会に参加したことによって、モチベーション向上にもつながり、そこでの経験が試験に活き、自分にとっていいことしかなかった。同じものに向かって一緒に戦った仲間とは今でもいろいろな話をしたり、今後のことについて語り合ったりしている。一緒に頑張っている人は絶対助けてくれる。そういう仲間を大切にしてほしい。

3つ目は、教職教育サポート室に行って先生方を頼ってほしいことである。

大学1年生、2年生の時は、サポート室は課題をこなすために訪問しインタビューしてすぐ帰ることが多かった。大学3年生の後期から教員採用試験を意識し始め、そこでサポート室に行ってみようと思った。そこで一般教養はもちろん、専門教養を解いたり、長文読解が苦手な私に文章理解を一緒にしていただいたりした。その学びは確実に試験に繋がったと言える。なので、本気で教員になりたいならサポート室へ行き、先生方から様々なことを学んでほしい。

教員採用試験を合格するのは簡単なことではないが、そこまでのプロセスを経験することが大切だと思うので、頑張ってもらいたいと思う。